

## 令和2年度 学校評価（職員用）結果分析・考察

### 1 回収率（計 86／93名 回答率92.4%）

幼小学部 33／39名

中学部 22／22名

高等部 31／32名

### 回収率（計 11／13名 回答率84.6%）

事務現業 11／13名

## 2 課題及び今後の取組

### (1) 評価結果の良かった項目について

・職員項目；44／53項目 ・事務現業項目；14／14項目が「達成・ほぼ達成」となった。

①健康管理、養護教諭等との連携、家庭との連携、情報通信、予算運営、提出文書、教材教具等の有効活用、安全運転、外部者への接遇等の項目に90%以上の高い評価が得られた。

②事務現業部においても施設管理、事務分掌実施、情報共有・管理の項目に高い評価が得られた。

#### (考察・対応)

○今年度は、コロナ禍、不測な状況からの新年度スタートであったが職員一丸となり、幼児児童生徒への学習保障と安全管理に努めてきた。その結果、各評価項目への課題は、見られるものの多くが高い評価になっていると考察される。常に学校全体、各学部、各所属の職員がPDCAにそったマネジメントの振り返りを心がけ実践していった結果だと推測される。

今後も学校発足資料、職員必携、各学部経営案、教育課程、教育支援システム等の核となる柱を熟知しベクトルを共有して行くことが大切である。柱を踏まえることで、個々の業務計画の適正が図られ、効果的な実践につながり最終的には、学校としての成果に繋がると思慮される。

### (2) 令和2年度職員の学校評価結果について、評価1と2の和が11%以上に達している項目について

- ① 項目4「個別の教育支援計画、個別の指導計画をとおして学部、学年間の連携」(17%)
- ② 項目6「学校行事等と関連した計画が考慮されている。」(15%)
- ③ 項目 15・16・17 の特別活動(行事等)、「行事等～実態に沿った設定」(15%)、各教科との連携(17%)、職員相互の共通理解、指導体制の連携(13%)
- ④ 項目 18 の「交流及び共同学習の目的を踏まえた交流実施」(74%)
- ⑤ 項目 26 の「幼小中高への進路情報提供・適切な進路指導」(11%)
- ⑥ 項目 40 の「地域社会との連携」(36%)
- ⑦ 項目 41 の「自立・社会参加にむけた ICT 活用の積極性」(19%)

#### (考察・対応)

昨年度に比べ、今年度は、明らかに新型コロナウイルス感染症拡大防止対策による不測な状況への対応になり通常の計画が崩れ、その対応に時間を要した結果が上記の項目の数値の

高さに繋がったと推測される。

対応として、文部科学省、沖縄県教育委員会からの感染症に係るガイドラインを踏まえ、今後の特別支援教育を見据え地域性を考慮した本校の教育課程の立て直しを図る。また、感染症に対応しうる衛生管理の強化、施設設備への対応、コロナ禍の中での教育環境の整備(オンライン授業及び諸会議、研修、儀式等への対応)の準備、実地的な授業計画、実践、業務の遂行に繋げて行く。更に次年度は、校内研修を進めつつ学校教育目標達成にむけて全職員が協働意識を高め職員個々の説明力、実践力につなげて行く取り組みを図る。

### (3)その他評価項目にない課題・改善・要望等

・コロナ禍での学校運営および新学習指導要領改訂に伴い、教育目標の達成に向け、一人ひとりがその理解、対応への不安や疑問が問いかけている。その内容を取りまとめ詳細は、下記の内容になっている。

[学校教育・教育計画]

- ①新学習指導要領改訂の(小中)完全実施、(高)年次的な移行を踏まえ全体、学部研修等で理解を深める必要がある。
- ②各教科指導へと移行していく教育課程について保護者を納得、理解させる説明ができるか不安である。保護者より進路指導、キャリア教育に向けた取り組みの充実を求められているが教科指導へ移行していく教育課程について説明できるのか不安である。
- ③個別の教育支援計画、個別の指導計画は学級では確認できたが学部間、学年での連携を深める時間の確保ができない。
- ④自立活動の指導は、職員により大きな差があることが課題、指導等の連携が必要。
- ⑤各学部間の種類の整理が必要ではないか。学部間の連携がまだまだ図られていないと思う。

(考察・対応)

- ・上記(1)(2)の(考察・対応)を参照

[学校安全・保健衛生・給食]

- ①防災バッグ(幼児児童生徒)の準備ができて良かった。保護者より職員の防災バッグも必要と意見が合った。
- ②今年度は限られた予算の中で計画的に対応できたが、次年度以降も防災・感染症対策は必要なので予算の確保が課題と考える。
- ③安全係は校務分掌で重要な位置づけだと思います。適切な職員配置が必要と思う。

(考察・対応)

防災に関する職員用防災バッグは、前向きに対応を考えていく。予算面に関しては、次年度の予算令達をふまえ県費対応を進めていく。また、PTA と連携し不足な状態へ対応し協働を進めていく。安全係等の職員配置は、職員配置人数を考慮し対応を図っていく。

[その他]

- ①コロナ禍、交流教育等の実施が厳しい状況であった。次年度もコロナ禍、その持ち方の工夫が

必要と思う。代わりとなる活動、目標設定が必要。ICT 機器を活用したオンライン、リモートなど取り組みの検討、職員のスキルの伝達、情報提供・共有も必要と思う。

②生徒個々にタブレットが配布されたので、もっと積極的に活用できたらと思う。

③今年度の校内研修は時間の確保ができスキルアップに繋がった。その分、校務処理、授業準備等の確保が難しい面もあった。

④校内研修のねらい、目標が不透明な中、実施され活動、発表を聞いたが実り多き研修には繋がらなかった。しかし、評価、個別の計画、授業計画に繋げるきっかけになり感謝しています。

⑤図書司書等の臨機応変な対応、生徒にわかりやすく、楽しませる工夫がされ感謝しています。次年度も興味の持てる図書活動の取り組みをお願いします。

⑥お便り、公文は、学級用に 1 部追加の印刷をお願いしたい。

#### (考察・対応)

コロナ禍の交流および共同学習に関しては、今年度、工夫し改善した指導実践を参考に ICT 機器を活用したオンライン取り組み継承し、発展的な視点を持って指導計画の段階から検証していく必要がある。各学級、各教科会、校務分掌係会において指導計画段階から想定し取り組んでいく。

図書司書、図書係を中心に継続して図書教育を含む学校教育活動全体へリンクし、その充実に努めていく。お便り等へは、準備対応していきます。